2003.5.16

IPCC 第１回スコーピング会合報告(WGII)

茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター
三村信男

1. 概要
- 期間：2003 年 4 月 14〜16 日
- 場所：マラケシュ会議場（モロッコ）
- 参加者：専門家 100 名、IPCC 事務局、WG の TSU11 名
（WGII セッションへの参加者は、３０名程度）
- 議題：IPCC 第４次報告書(AR4)の進め方と骨格議論
- 議事次第：毎日全体会合と WG 別会合及びシナリオグループ会合が開かれ（朝９時〜夜 10 時）、３日目の午後、全体の報告を受けて閉会した。

2. Pachauri IPCC 議長の挨拶

AR4 は、第２約束期間に関する議論が始まる時期に提出されるので、国際的に大きな影響力を持つ。そのことを視野に入れて、第３次報告書を超える内容を持ったものにしたい。そのため、英語以外の論文の反映、Cross Cutting Theme(CCT)の重視、将来シナリオの作成と評価とのリンク、IPCC 以外の科学者コミュニティ・関係者との交流の必要性などが述べられた。
- 地域化・地域の視点
- 社会経済的影響（UNFCCC 第２条の「危険なレベル」に関連した課題）
- 資源の地理的分布などの特性
- 異常気象現象の予測と影響
- 影響と対策の経済的・環境的・社会的コスト
- 非 CO2 ガスの影響の評価

3. WGII

共同議長の Martin Parry のリードで、かなり整然と議論が進み、主要な論点が整理されて報告書の骨格が固まりつつある。WGII は今後共同議長、とくに Parry のリーダーシップが相当な重みを持つと予感させた。

1） 章の構成

目次案は、参考資料が最近送られてきた（まだ、仮原稿の段階)。わが国では、総合科学技術会議の下で地球温暖化研究イニシャティブが走っているが、マラケシュで議論した内容は温暖化イニシャティブの目標・課題と多くが重なっている。

（目次案）

I　概要と方法
- データ、仮定、シナリオ

II　温暖化の影響の検出（物理系、生物系、人工系）

III　分野影響
- WEHAB+αに絞る方向。WEHAB とは、水、エネルギー、健康、農業（食料)、生物多様性のことで、+αには海岸、社会・経済システムが想定されている。適応策に関する系統的な議論

IV　潜在的影響への対応－適応策

V　地域

VI　結論

2) 分野別影響の章の標準的構成と内容

- 対象の範囲と特性
- 第３次報告書の主要な結論（これ以降は、TAR 以降の新情報を示す）
- 気候及び気象への感受性
- 予測される影響
  - 影響の大きさと変化速度
  - 影響の閾値
  - 影響が閾値を超える時期
- 適応策
  - 自動的適応
  - 計画的適応
- 重合的ストレスによる複合影響
- （Box：地域影響、hot spots の例示）
- （図：地球規模影響を示す地図）
- 他の分野との相互関係
- 政策への影響
- （Box：持続可能な開発との関係）
- 研究課題と優先度

3) 地域の章について

途上国政府から地域毎の影響評価と適応策を示すように強い要請があることから、地域の章を含める方向でほぼ合意した。ただし、焦点を絞った短い章立てにする方向である。どのように地域分けするかについては、地理的区分、IPCC の地域分け、UNFCCC での最貧途上国といった区分、気候区分などが出たが決まらず、９月ベルリンでの第２回スコーピング会合までに検討していくことになった。WGI、III も地域特性を持つので協力すべしとなったが、視点が異なるので、WG 毎に地域分けが異なるのが自然だという意見もある。

4) Cross Cutting Theme(CCT)

３つの WG の横断的なテーマを検討し、各 WG の評価に矛盾や不統一がないようにしようとしている。CCT のテーマは、risk and uncertainty, adaptation and mitigation, regional integration, sustainable development, water, key vulnerability, technology である。CCT チームは２，３名の Anchors が率いてガイド報告を準備し、関連する章の執筆者はそれを参考にして執筆することになる。今回は、CCT がかなり重視されている印象である。（資料-1）

4. 今後の予定

1) AR4 作成のスケジュール

14-16/04/2003	第１回スコーピング会合（マラケシュ）
1-2/09/2003	第２回スコーピング会合（ベルリン）
	AR4 報告書の構成、CCT、統合報告書の議論
11 月/2003	IPCC 総会
11 月/2003	CLA、LA、Reviewer などの推薦依頼
４月/2004	IPCC ビューローが CLA、LA、Reviewer などを選定
６月以降/2004	第１回 LA 会合

2) CLA、LA、Reviewer の推薦

CLA、LA は各国政府の推薦に基づいて、IPCC ビューローが決める。推薦の開始は 2003 年 11 月であるが、存在感を示そうとすれば各分野に多くの候補者を推薦することが重要であり、推薦者リストを準備しておく必要がある。WGII では、若い研究者の発掘と登用を目

指す方向が示されたので、政府推薦とは別にアジア太平洋の研究者も含めて、直接 TSU に推薦したい。

5. 感想

第３次報告書の時に比べて、課題の整理、見通し、スケジュールの設定が進んでいる。第１回スコーピングの前にすでに第０次スコーピングが行われたような印象である。これは、IPCC 議長や WG の Co-chair の性格によるのかも知れない。この調子で組織だって進めば、第２回のベルリンでは、ほぼ全体の構造が固まるであろう。

WGII では、気候変動枠組み条約第２条の「危険なレベル」とは何か、それ以下に抑える政策の可能性はあるのか（安定化シナリオと適応策の効果）、それは社会的にどういう意味を持つのか、といったことに強い問題意識がある。これは、基本的に総合科学技術会議の温暖化イニシャティブの課題設定と同じ方向である。温暖化イニシャティブが成果を出せば、IPCC への貢献につながるといった感を強くした。

ただし、議論のテンポが速いので、研究成果を発表するスピードが必要な気がする。ゆっくりしていると、IPCC の WG や CCT での議論に先を越されて、基本的な論点が出尽くしてしまうかも知れない。

IPCC が若いフレッシュなメンバーの参加を求めているのが印象的である。望ましい方向なので、積極的に若い活発な研究者を送り込みたい。

6. いくつかの IPCC への貢献、サポート策

- 温暖化イニシャティブの下での研究と発表の推進
- IPCC 国内連絡会（気象庁、環境省、経済産業省）との連携
- 幅広い学会、研究者との連携（情報提供を含めて）
- 若いフレッシュな研究者の推薦
- CLA、LA などへの支援（文献整理、ロジサポート、所属機関の認識向上など）
- アジア太平洋地域の研究サポートと可視化
- 主要なテーマでの国際シンポ、ワークショップの開催（ water や key vulnerability のテーマで、国際 WS を開く可能性があるのではないか）

（資料-1）

Cross Cutting Themes の構成

CCT	Lead WG	Anchors
Risk and uncertainty	WGI	M.Maning(USA) M.Petit(France)
Adaptation and Mitigation	WGIII	M.Grubb(UK) S.Huq(Bangladesh/UK)
Regional integration	WGI	F.Giorgi(Italy) T.Carter(Finland)
Sustainable development	WGIII	L.Srivastava(India) T.Heller(USA)
Water	WGII	Z.Kundzewicz(Poland) L.Mata(Venezuera)
Key vulnerabilities (including issues relating to UNFCCC Art.2)	WGII	(S.Schneider)(USA) (S.Semenov)(Russia) (　　　　　)
Technology		

（資料-2）

第１回スコーピング会合のフォローアップと短期的な今後の予定（平石氏メモ）

April 16	First Scoping Meeting ends
April 25	WGs to provide draft reports structures to IPCC Geneva, then to the Chair
May 2	IPCC to provide draft reports to Co-chairs
May 9	WGs to provide draft list of second scoping meeting nominees to secretariat
May 16	Comments back from Co-chairs FSM participants comments
May 20	teleconference (Chair, VCs, CCs, TSUs)
May 23	Report of FSM on Government-closed website, comments by 14 July. Berlin invitation to be issued.
May 30	Anchors to rewrite (30 May)
June 9	Meet with NGOs and industry
June 11	SBSTA/IPCC JWG meets
June 27	review by experts (experts to be selected by co-chairs) (27 June)
July 11	anchors to revise (11 July)
August 1	review of 2nd draft by Bureau
August 11	revised paper on closed Website
September 1-4	Second Scoping Berlin meeting